

令和7年度在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実績報告

資料1

| 目指す姿 | 事業名 | 実施内容 | 評価と課題 |
|--|---|--|---|
| <p>① 在宅療養・認知症支援の基盤が整備され、場面に応じた切れ目のないサービス（日常の療養支援・入退院支援・急変時の対応・看取り）の提供体制が構築される。</p> | <p>在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会</p> | <p>【第1回(5/22)】 ・令和6年度在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実績報告 ・令和6年度認知症初期集中支援チーム実績報告 ・令和7年度在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実施計画 ・意見交換 「入退院時の医療と介護の連携について感じること」</p> <p>【第2回(12/11)】 ・在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の上半期実績報告 ・認知症初期集中支援チーム上半期活動実績報告 ・(仮)白井市認知症施策推進計画について ・意見交換 「認知症本人・家族の声を聴くための取組について」</p> | <p>医療と介護の連携について、それぞれの立場においての意見交換が行えたことで共通認識が図れた。 また、認知症施策推進計画策定に向け、新しい認知症観の共通認識が図れ、当事者や家族支援について意見交換を行ったことで、実施にあたり大変参考となった。</p> |
| | <p>医療・介護連携ワーキング</p> | <p>R7年度は認知症支援・介護施設における救急時連携について実施</p> <p>【認知症支援 第1回(9/20)】 ・認知症みまもり訓練に向けた検討 (実施場所、内容、規模、周知方法、役割分担、協力者について)</p> <p>【認知症支援 第2回(11/16)】 ・認知症みまもり訓練に向けた検討 (流れと場所の確認、衣装や小物について)</p> <p>【介護施設における救急時連携 第1回(10/7)】 ・市の救急時対応に関するこれまでの取組とアンケート結果について ・救急隊としての関わり(消防署)について ・各施設における救急時対応の取組状況と課題、課題解決のためにできること</p> | <p>認知症支援は、2回目の実施なるみまもり訓練の実施に向けて、様々な立場からの意見交換をすることができた。 救急時連携は、事前に介護施設用シートの活用状況や救急時対応について市内施設へのアンケート実施も行い、施設での対応の現状把握ができた。</p> |
| | <p>「在宅医療後方支援制度」の運用</p> <p>※平成31年4月より開始、在宅医療を受ける患者が一時的な入院を必要とする状態になった際、事前に登録のある市内3病院のいずれかで受け入れる仕組み</p> | <p>【システム利用実績】(令和7年1月～12月末) 登録患者数:20名 後方支援体制利用患者数:10名(令和6年:9名)</p> | <p>本制度の利用により、市内で医療が完結できるため在宅医師側だけでなく、患者本人・家族側の負担軽減につながっている。 運用開始より年数が経過しており、認識や課題について関係者間での共有が必要。</p> |

| 目指す姿 | 事業名 | 実施内容 | 評価と課題 |
|--|---|--|--|
| <p>①在宅療養・認知症支援の基盤が整備され、場面に応じた切れ目のないサービスの提供体制が構築される。 （日常の療養支援・入退院支援・急変時の対応・看取り）</p> | <p>「認知症初期集中支援チーム」の活動</p> | <p>【対応実績】 令和7年度 5ケース（令和6年度 7ケース） ※活動実績の詳細、評価および課題については、別紙資料に記載</p> | <p>地域包括支援センターが総合相談として対応していることもあり、令和7年度は対象者が少なかった状況。ケース対応を通じ、地域包括支援センターや医療機関・ケアマネジャーと連携を図り、支援を強化していく。</p> |
| | <p>〈認知症本人支援・家族支援の場〉 ①「家族介護教室」の開催 ②「お楽しみ処（認知症カフェ）」の開催 ③認知症パートナーによる訪問支援</p> | <p>①移動・移乗介助教室(1/22)参加者:14人 ②西白井お楽しみ処:22回 参加人数:延214人 池の上お楽しみ処:21回 参加人数:延191人 ③認知症パートナーによる訪問支援(チームオレンジ):9ケース ※認知症状があり、閉じこもりがちの方を対象に「お元気まもり事業」を紹介。地域の見守りパートナーとして認知症パートナーが月2回の定期訪問で交流。</p> | <p>家族介護教室は、参加者の1/3は実際に介護をしているか、する予定がある方だった。他は将来に向けて学んでおきたい等で参加していた。認知症パートナー(認知症サポーター養成講座のステップアップ講座修了者)による、お楽しみ処の運営や訪問活動行っている。一方で、お楽しみ処へ当事者やその家族の参加が少ないことが課題であり、周知方法等検討していく必要がある。今後も引き続き、担い手の育成と活躍先へのつなぎ支援を強化していく必要がある。</p> |
| 目指す姿 | 事業名 | 実施内容 | 評価と課題 |
| <p>②医療・介護職の顔の見える関係構築ができ、資質向上が図れる</p> | <p>多職種連携研修会</p> | <p>【多職種が関わる入退院時連携研修会】10/31 講師:聖隷佐倉市民病院 看護師 岩崎彩加氏 参加者:市内居宅介護支援事業所、訪問看護、医療機関従事職員 計26名 【在宅における看取り支援研修会】12/3 講師:あさがおクリニック白井院 院長 諸岡真道氏 参加者:市内訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、介護施設、訪問薬局、訪問診療従事職員 計24名</p> | <p>グループワークを取り入れ、参加者のスキルアップや参加者同士の交流が図れたと評価している。 。テーマによっては病院や薬局従事者の参加もあり、多職種の関係づくり、連携につながった。</p> |

| 目指す姿 | 事業名 | 実施内容 | 評価と課題 |
|---|---------------------------------|---|---|
| <p>③ 医療・介護・行政等関係者の連携ルールが作られ、情報共有ツールが普及し、関係者間で共有される。</p> | <p>救急医療情報キット、介護施設用シートの配布、運用</p> | <p>【救急医療情報キットの配布】 累計：6398本（平成29年12月～令和8年3月末） 令和7年度：357本（令和6年度541本）</p> <p>【救急要請時における救急医療情報キットの活用】 救急医療情報キット：339件（令和6年度：459件） 介護施設用シート：108件（令和6年度：134件） 65歳以上の救急出動（自宅・介護施設のみ）件数（1537件）に占める情報連携シート（救急医療情報シート・介護施設用シート）の活用率29.1%（令和6年度：37.3%）</p> <p>【キットの普及啓発】 ・キットの周知啓発として、令和3年2月より救急搬送現場にて白井市・印西市共通のリーフレットを配布している</p> | <p>救急現場、各地域包括支援センターでのリーフレット配布により、申請者数は増加している。年間の配布数は年々減少傾向にあるため、普及が進んできているのか周知が出来ていないか、の判断は必要。今後も普及に向けた継続的な取り組みをしていく。</p> |
| | <p>医療と介護の情報連携（ICT検討）ワーキング</p> | <p>【多職種連携情報システム（バイタルリンク）】 説明会の実施はなかったが、新たな登録事業者が5箇所あり、関係者間の情報共有に有効に利用されている</p> | <p>多職種連携情報共有システムの基本的な運用ルールを定め、運用することができている。今後、登録したものの利用していない事業所への活用促しと、市外事業所への周知について検討する必要がある。</p> |
| | <p>徘徊保護高齢者に関する警察との連携体制の構築</p> | <p>警察に保護された徘徊高齢者に関する情報について、家族の同意が得られた場合、市に情報提供があり、支援につながっている。</p> <p>【実績】 20件（令和6年度31件）</p> <p>【対応】 ①介護認定あり 12件 →ケアマネジャー及び地域包括と情報共有し、支援実施。 ②介護認定なし 8件 →地域包括により実態調査等を実施。</p> | <p>警察からの情報提供から、直接の支援やケアマネジャーへの支援につながっている。今後も、情報提供を受けながら警察、ケアマネジャー、地域包括と連携し、支援を行う。</p> |

| 目指す姿 | 事業名 | 実施内容 | 評価と課題 |
|---|--|--|--|
| <p>④ 認知症、在宅医療、在宅看取り等についての普及啓発を行い、市民の理解が進む。</p> | <p>「終活支援ノート」の配布、「終活支援講座」の開催</p> | <p>【終活支援ノート】 令和元年9月より配布 高齢者福祉課、地域包括支援センター窓口での配布を継続</p> <p>【なるほど行政講座(終活支援講座)】 ・西白井複合センター主催、健康長寿村主催 各1回開催 計2回 (もしバナゲームの実施)</p> | <p>終活支援講座をなるほど行政講座メニューとして登録、要望に応じて随時実施していく。</p> |
| | <p>「認知症周知啓発月間」 「認知症サポーター養成講座」</p> | <p>【認知症周知啓発月間】 ・9/1号広報 ・保健福祉センター1階ホールに情報コーナー設置</p> <p>【認知症サポーター養成講座】 ・認知症サポーター講座開催:年10回、663人 (小学校:308人、中学生:54人、高校生:240人)</p> <p>【認知症みまもり訓練】 ・11月 大山口小学校区にてまちづくり協議会と実施 参加人数:27人</p> | <p>認知症周知啓発月間を設け、展示や講座を行うことで周知啓発に繋がっている。今後は、地域の企業等に向けたサポーター養成講座を開催していく。 令和6年度より、認知症みまもり訓練を実施。認知症の方に対し、声かけ・見守り・保護していく仕組みづくりを進め、自分らしく暮らし続けられる地域づくりの構築を目指していく。</p> |
| 目指す姿 | 事業名 | 実施内容 | 評価と課題 |
| <p>⑤ 在宅医療・介護連携、認知症に関する相談窓口整備が整う。市民や医療・介護関係者への相談支援体制</p> | <p>医療・介護関係者からの在宅医療の相談窓口を地域包括支援センター(市内3か所)に設置</p> | <p>【実績】 医療に関する相談(実件数):201件 内訳) ・医療機関や治療、保健・健康相談 96件 ・精神疾患 76件 ・在宅医療、訪問看護 29件</p> | <p>市内外の訪問診療・訪問看護の情報収集を継続し、相談時に活用していく必要がある。</p> |
| | <p>「認知症ガイドブック」に認知症に関する相談先の情報を掲載</p> | <p>高齢者福祉課、各地域包括支援センター窓口で随時配布</p> | <p>元気なうちから情報が得られるよう、引き続き周知を行う。</p> |
| | <p>「地域包括支援センター」の周知啓発</p> | <p>各地域包括支援センター職員が、各自、民生委員の定例会に等に出席し、周知に努めた。</p> | <p>今後も地域に出向き、継続して周知啓発に努める。</p> |